

平成25年度第1回 社会福祉学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成25年10月7日(月) 13:30~15:30
II. 場所 : 私立大学情報教育協会 事務局 会議室
III. 出席者 : 山路委員長、山田委員、井上委員 (skype)、天野アドバイザー
(事務局) 井端事務局長、森下、松本

IV. 資料

- 資料① 平成25年度社会福祉学教育FD/ICT活用研究委員会の活動計画
資料②-1 社会福祉学教育における教育改善モデルについてアンケートの内容
資料②-2 社会福祉学教育における教育改善モデルについてアンケート集計結果
参考1 学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査 (平成25年8月中央教育審議会資料)
参考2 これからの大学教育等の在り方について (平成25年5月教育再生実行会議第三次提言資料)
参考3 教育振興基本計画 (平成25年6月閣議決定資料)
参考4 学びの革命世界が舞台 (新聞情報)
その他 平成25年度委員名簿、平成25年度公益社団法人私立大学情報教育協会事業計画書

V. 議事内容

1. 平成25年度の社会福祉学教育FD/ICT活用研究委員会の活動計画について

平成25年度は、能動的学修の実現に向け、ICTの活用を含めた効果的な学修の取り組み方策、教員の教育指導の開発について今後一層研究を進めるため、サイバーFD研究員の先生方へのアンケートを踏まえた見直しを2回の委員会で行う。その上で、平成26年度に向けた教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現に向けた研究の意識合わせを行う。

2. 教育改善モデルのアンケートの検討について

資料②-1によりサイバーFD研究員の先生からいただいた8件の意見について内容を検討した。

3. アンケートの主な意見

(1) 社会福祉学教育における学士力の考察の到達目標、到達度

主な意見と検討内容 (意見は①~⑤、検討内容は*で示す)

- ① 社会福祉学をソーシャルワーカーの養成教育として捉えているがケアに携わる人たちの教育の視点も入れるべきである。
* 到達目標1で人間と社会環境を総論でねらい、到達目標2. 3. 4でソーシャルワーカー技術論、態度、技術の応用、5では、制度の理解・分析、発展的なサービスの企画・運営力となっているが、到達目標1で全般の福祉の意義、2では人間尊厳も含めている。到達目標の2、3、4でソーシャルワークが3つ出てくるので、このことで誤解のないよう表現を見直す。
* 国際的には社会福祉=ソーシャルワーク、ケアは介護であり、ソーシャルワークとはまた違う分野で、社会福祉、介護福祉、児童福祉など大学により教育目標が異なる。しかし、社会福祉の中にケアも入って良いし、ソーシャルワークの中のケアも社会福祉というフィールドで捉えればケアワークや保育も入る。
* この提言は厚生労働省基準で考えているが、社会福祉の中には幅広い色々なものが入ることに鑑み考察の前文に説明を入れて言葉を補うようにする。
② 到達目標1と2を理解させるために、「社会福祉の歴史的視点」を入れるべきである。
* 到達目標1の中で「社会福祉の歴史的視点」を入れるよう見直しする。
③ 到達目標2の到達度④「ソーシャルワーカーの倫理要領を概説できる」は、ソーシャルワークを行う現場が保育園などにも拡大し、保育士などもソーシャルワークを学ぶようになってきていることから、

「ソーシャルワーカーなど対人援助の専門職としての倫理を概説できる」とすべき。

* ソーシャルワーカーの倫理要領を対人援助の専門職としての倫理にしては、ねらいが薄くなってしまふことから、修正はしないが、表現を工夫する。

④ 社会福祉教育が資格試験の教育に特化されつつある現状の中で、資格試験に特化することなく、専門職養成施設とは異なる、広く市民社会に貢献できる福祉教育を大学では目指すべきである。

* 委員会ではそのように考え、特定の資格試験を想定せず、ソーシャルワークという広い領域で広く市民社会に貢献できる人材を育てる教育を目指したものであり、児童福祉、介護福祉などでもこ考え方を各分野で応用してもらえれば良いと考えた。十分に理解されていないことがうかがえることから誤解のないような表現を考察のところで見直す。

⑤ 今日の社会状況において社会福祉の専門性と必要性を基盤においてカリキュラム構成がなされるべきである。具体的には、現状の様々な社会課題に対して、具体的に社会福祉がどのように関わり、課題の軽減、解決、残された課題、限界などについて学生が、具体的な事象から、社会福祉の意義と価値について気付き、将来の職業としての専門職を見据えることのできるように配慮すべきである。

* 委員会ではそのように考えているが、イメージが湧くようにコアカリキュラムを見直し、具体的に表現する。

(2) 教育改善モデル、専門性、教育力、FD活動と課題

一部誤解があるものの賛同が殆どであり、特に見直し等の必要は無かった。

4. 次回までの課題

① 見なおしを検討する部分については次回までの課題とし、各委員に見直し案を作成してもらう。

考察、カリキュラムのイメージ、全体のソーシャルワークの表現とし、学校連盟の改訂版のコア・カリキュラムなども参考にする。

② 国家試験の殻を破ってもう少し広くやろうという私情協の考えが読み取れる文脈になるよう表現を見直し、ご意見をいただいた先生と今後も協力して教育改革を共に進めて行く。

5. 社会の動きなどを踏まえた能動的学修等の動向の意識合わせについて

参考1 学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査、参考2 これからの大学教育等の在り方について、参考3 教育振興基本計画、参考4 学びの革命世界が舞台（新聞情報）等を報告し、新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて、国・社会から様々な提言が行われており、大学に改革行動が求められていることや、能動的な学びを実現する授業改善の取り組み、全学的な教学マネジメントの課題と対策、教員の教育力向上の課題、情報通信技術（ICT）を活用した授業改善への取り組みと課題等について意識合わせを行った。

昨年までの5年間に亘り研究を進めた「大学教育への提言」未知の時代を切り拓く教育とICT活用で提案した内容が学士課程教育の現状と課題に関するアンケート調査の結果や内閣府、中央教育審議会等の方向と一致しており、このことを踏まえて平成26年度にむけた教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現に向けた取り組みを研究することを確認した。

6. 次回の委員会

日時：12月14日（土）14：00～16：00

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室